

目標：参加型の河川整備を目指す

■地域の多くの人に河川に関心をもっていただき、川に直接接していただいて、川のことを自ら考え、行動していただけるよう、参加型の河川整備を目指し、川に関する情報の共有や連携を図っていく。

現状の課題

＜川が人々の生活から遠ざかり、川に対する関心がなくなっている＞

- かつて人々は、川で遊んだりしていたが、今ではそういう利用は減っている。
- 飲み水を汲んだり、洗濯をしたりと川からの直接の恩恵をうけてきたが、近年は水道が整備され、恩恵を実感できない。
- 河川整備の進捗等による洪水被害の減少に伴い、川の怖さを感じることは少なくなってきた。

- かつては身近な遊び場や生活の場として親しまれてきたが、現在ではこのような利用はまれになっている。



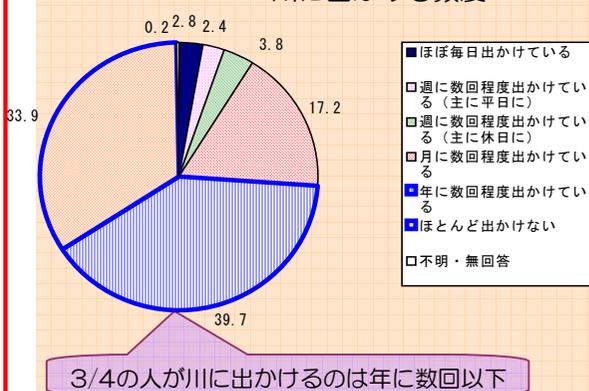
水浴びを楽しむ人々
(出典：八幡市ホームページより)



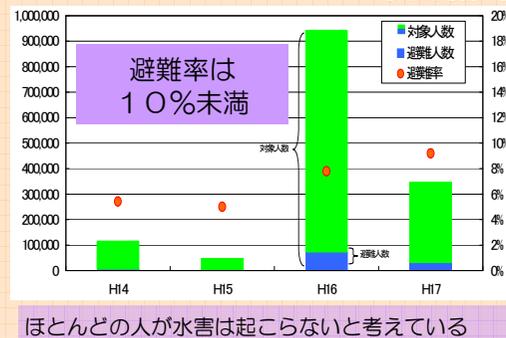
水を飲む人、顔を洗う人、洗濯をする人・・・
(出典：「今昔写真でみる世界の湖沼の100年」
(財)国際湖沼環境委員会 滋賀県立琵琶湖博物館 2001)

- 川に出かける頻度は少なく、水害に対する危機感も高くない。

淀川水系流域住民へのアンケート結果
～川に出かける頻度～



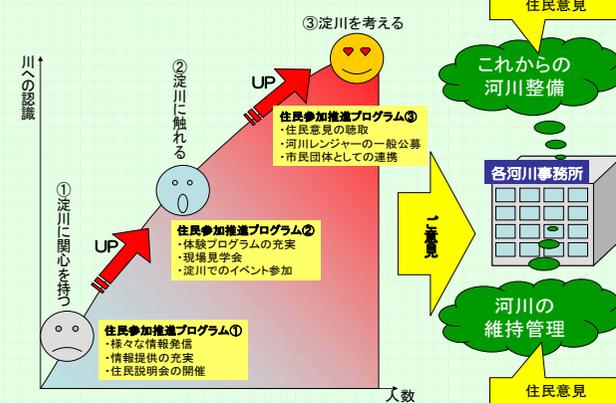
避難勧告発令時の避難状況 (河川局調べ)



整備内容

■住民参加プログラムの推進

淀川住民参加推進プログラム模式図



もっと川を身近に感じてもらい、再び人と川との繋がりを取り戻すことを目的に、これまでの情報発信、住民参加の取り組みに加え、新たな取り組みを実施していくためのプログラムを作成する。

■川に関する情報の発信



日頃から川に関心を持っていただくための情報や洪水時等に役立つ情報等の川に関する情報を、テレビ、携帯電話及びパソコン等のさまざまな手段で迅速に分かりやすく提供する。

■河川レンジャー



〈環境〉川と子どもをつなぐ
 〈治水〉災害体験を次世代へつなぐ
 〈利水〉川と地域の歴史を流域に広げる

河川レンジャーは行政と住民との間に介在し、住民とともに川づくりに参加し、住民が河川に関心を持つような活動に取り組む。